



第4回評議員会が開催されました

於 県教職員互助組合会館

2024年3月6日（水）に、第4回評議員会が開催されました。

会の冒頭、寄井田会長から、「18次の県費事務改善検討委員会事業も無事終了し、現場に追録が届いていることと思う。年度内の早い時期にほしいという声に応えるために、最大限日程を詰めて取り組んできた。当初の見積りより印刷枚数が少なくなったものの、価格があまり下がらなかったことについては、昨今の経済状況を鑑みればやむを得ないと判断して進めさせてもらった。

今日の議論を踏まえて、2024年度の事業計画を決めていくことになる。理事会・評議員会の回数縮減をはじめ、今ある事業の見直しも進めていく。コンパクトにしながらも、会員の期待に応えられるように進めていきたい。ここが来年度の運営に向けて評議員の皆さんの意見を直接うかがう最後の場となるので、提案に対して忌憚のないご意見を出してもらえれば、具体を詰めていく作業の中に生かしていく。」とのあいさつが行われました。

協議においては、今年度事業経過や決算見込の報告、来年度の事業計画案・予算案の説明、役員の改選の状況、学校事務現状報告会（8月9日開催予定）など、様々な項目について話し合いました。

特に、総代会を現行の8月から6月下旬～7月上旬に移行し（来年度は7月5日開催予定）、評議員会を4回から3回に減らす（現行の5月を削減）ことによる、開催期日の設定と旅費負担の考え方について、現時点での案を丁寧に説明しました。地区に帰ってからの確認を要する部分もありましたが、概ね了解をいただき、総代会に向けた事業計画案の策定を進められることになりました。

最後に質疑応答の一部をご紹介します。

Q 県事協データ版について、今年度からCD配布はしないことになったが、HPに掲載されていない通知通達集の収集や公開は、今後も事業として続けるのか？

A 収集・整理は今後も進めるが、担当個人だけが頑張れということでは困る。各地区に収集への協力体制を構築するなど、公開方法も含めた諸課題をクリアしながら進めていきたい。

Q 検討委員の推薦について、来年度は7月5日事業説明、7月中旬事例収集締切で、スケジュールが非常にタイトになっている。この組み方をしているということは、各地区の評議員等による収集の段取りなど、検討委員への手助けが、当然必要になるという考え方で良いか？

A 各地区それぞれのやり方があると思うが、推薦する検討委員と動き方を詰めてほしい。検討委員に丸投げで「何をどうして良いのか分からない」ということがないようにしてほしい。

ご参加くださった評議員の皆様、お忙しい中ありがとうございました。

大変慌ただしい時期が参ります。元気に乗り切れるよう、会員の皆様くれぐれもご自愛ください。

諸手当認定マニュアル等についてのお願い

2月末から3月はじめにかけて、諸手当認定マニュアルと実務手引書の加除修正分が、お手元に届いたと思いますが、差し替え作業はお済みでしょうか。もし、まだの方がいらっしゃいましたら、年度をまたぐ前に済ませてくださいますようお願いいたします。

また、地区から配布されたものや公用分（学校配当予算で購入したのもの）については、学校保管となります。異動になって、新任校で「あれ？持って来てるぞ」とならないようお気をつけください。

一方で、新任校に赴任してみたら認定マニュアル等が「元々から配置されていない」という場合があります。その際は、各地区の県事協評議員へご相談ください。よろしくようお願いいたします。

活動経過及び予定

1月12日	理事会・第3回常任委員会
2月下旬	県事協マニュアル等追録発送
3月6日	理事会・第4回評議員会
4月26日	理事会
6月19日	理事会

各地区の事務職員会等の紹介

南薩地区から

枕崎市事務職員会の紹介



枕崎市事務職員会
桜山小学校 山本 崇

皆さんこんにちは。枕崎市事務職員会です。当会は、枕崎・別府地区と立神・桜山地区の2つの事務支援室で構成され、8名の事務職員が在籍しています。人数は少ないですが、在籍中に各人が1～2回は重要な係等を受け持つため、着実に経験を積むことができるのが利点です。また、年齢構成も、ベテラン、中堅、再配、新採がそれぞれ2人ずつとバランスがとれており、様々な事を相談しやすい雰囲気となっています。

さて、当会の研修体制ですが、本年度は年5回研修会を開催する予定となっています。年間通しての研修テーマは据えず、予算、備品、監査、諸手当等時宜を得た情報交換等を行っており、それぞれの所属での業務に生かしています。

また、市教委との風通しも良く、業務改善の要望や施設修繕の依頼等、こちらの意を汲んで速やかに対応をしていただけるため、とても頼りになります。今年度は、校務用PCの入れ替えや、校務支援システムSee-Smile2の導入、児童生徒用机の新調等、学校現場のアップデートにお金も手間もかけていただいているところです。

このように、各所属相互及び市教委との関係がとても良いのが当会の強みですので、異動の際は南薩地区（枕崎市）と希望されてはいかがでしょうか。枕崎銘茶を淹れてお待ちしております。



枕崎市立小・中学校について

R5教職員録より

	枕崎小	枕崎中	別府小	別府中	立神小	立神中	桜山小	桜山中
児童生徒数	362	195	119	61	198	131	133	76
県費職員数	28	17	14	13	18	16	14	13

鹿児島市の紹介

鹿児島地区から

1 鹿児島市の事務職員の状況

	学校数	事務職員数	複数配置校	小中兼務校
小学校	79校(内1校休校中)	98名	22校	3校 (錫山、東桜島、黒神)
中学校	39校	47名	9校	
計	118校	145名	31校	

令和5年度の鹿児島市の事務職員数は145名となっており、複数配置校が全体の約3割を占める31校あります。児童生徒数1,000名を超える学校が6校ありますが、児童数1名の学校もあり、大規模から小規模まで幅広い学校を抱える市となっています。支援室は21グループに分かれています。

また、鹿児島市には、「鹿児島市学校事務研究会」と「鹿児島市小中学校事務職員会」の2つの研究団体があります。それぞれの団体で年間を通して研修を行います。この両会で「鹿児島市小中学校事務職員協議会」を構成し、年2回、グループ討議や講演を行うなどの研修を実施して連携を図っています。

鹿児島市では、「鹿児島市学校事務研究会」が県事協に加入しています。

2 鹿児島市学校事務研究会について

・年間研修計画

研修形態	開催回数	研修内容
全体会	7回	実践事例研修(市費・県費)
グループ別研修会	3回	地域で6グループに分かれ、学校事務・市費事務の手引き等の加除修正、広報誌作成
管外研修	1回	11/28・29の2日間で、玉名市学校事務研究協議会、熊本市立川尻小学校と合同研修を実施

研究会の全体会では、日々の実務研修や、会員から提供される実践事例研修等に取り組んでいます。また、実務に役立つ講演なども講師を招聘して実施しました。

今年度は管外研修として熊本県内2つの市を訪問し、給食費公会計化や学校徴収金システムの状況、学校事務センターの概要等、グループ討議を交えながら意見交換を行い研修を深めることができました。

今後も、研究会の研修が充実した時間となるよう、会員みんなで声を掛け合って楽しい会を作り上げていきたいと思っております。

第18次県費事務改善検討委員会の報告です

第18次県費事務改善検討委員会において県事協版「諸手当認定・電算マニュアル」「学校事務の実務手引書」「福利厚生団体様式記入例」「『出産・育児』ハンドブック」の更新を行いました。県費事務改善検討委員・常任委員の皆様には、職場の業務をかかえながらも、内容の検討・更新作業に携わっていただきました。

また、県教育委員会教職員課・総務福利課をはじめ、県教職員福祉事業連絡会の各団体におかれても、業務御多用の中、点検や情報提供をしていただきました。私たち学校事務職員が業務を適切に行うために、多大な御協力をいただきました関係の皆様には、厚く御礼を申し上げます。

編集にあたっては、制度や様式の改正に対応するとともに、会員の皆様から提供いただいた情報をもとに検討し、内容の充実を図りました。認定事務や福利厚生の手続きに、給与事務にあたっての確認や学習に、お近くに置いて御活用いただければ幸いです。「『出産・育児』ハンドブック」は、学校事務職員だけではなく、教職員の皆様にもお役立ていただける内容となっています。あわせて御活用いただければ幸いです。

更新されたデータは、県事協ホームページに5月下旬を目途に掲載します。

なお、内容現在は編集時点(2023年11月30日)のものであり、それ以降の条例や様式等の改正には対応しておりません。最新の情報と照らし合わせながら御利用ください。

各編とも多くの会員に御利用いただいております。今次の更新にも数多くの情報を寄せていただきました。次年度も引き続き検討を重ね、県事協の目的である「県下の学校事務職員が等しく情報を共有・享受し、広域的に連携する」ことに寄与できればと考えています。

お気づきの点や、地区研修会等における質疑応答、日常業務の中であった事例などの情報を、各地区の評議員または次年度の県費事務改善検討委員へお寄せください。会員の皆様の御意見をもとに、学校現場の要望や実態に即した改善が図れるよう、更に充実を期してまいります。

来年度の県費事務改善検討委員会に向けて

上記の第18次報告でも触れていますが、例年、5月の第1回評議員会で県事協マニュアル等に掲載する質疑応答の収集について案内し、現場から出された質疑に教育事務所が文書等で回答したもののうち、広く県下で活用できる情報を掲載する、という段取りを踏みながら事業を進めてきました。しかしながら、1頁目の評議員会報告に書かれているとおり、来年度から5月評議員会を行わないことになったため、7月5日に行われる事業説明会で初めて常任委員・検討委員に詳細な説明を行うという、タイトなスケジュールでスタートすることになります。

ただ、評議員会での案内はできなくなりましたが、メール等を利用して早い段階での収集依頼等を進め、常任委員・検討委員の皆様が困惑することのないよう、例年以上に万全を期して参ります。各地区から推薦の声がかかった際には、前向きにご検討くださいますようお願いいたします。

鹿児島市学校事務研究会より今年度も資料提供していただきました

～「学校事務の実務手引書」はお役立ち情報満載です～

鹿児島市学校事務研究会(以下、「研究会」)から「学校事務の実務手引書」を昨年度に引き続き提供いただきました。職員が採用されたとき・結婚したとき等、いろいろなケースごとに、県費事務と福利厚生関係事務がまとめられています。提供していただいたデータは5月頃に、県事協HP(会員ページの各地区研修会資料)に掲載予定です。ぜひご覧ください。

研究会ではこのほか「市費事務の手引」等、日々の業務に役立つ資料を作成しています。

編集後記

年度末真っ盛りです。届く書類に目を通す余裕も失われがちなのこの時期、健康第一・平穩無事で過ごしたいものですね。しかしながら、世の中思うようにはいかないもので、突然、日常がガラッと変わる事態に遭遇することもしばしばです。急な病に倒れたり、事故に巻き込まれたり、やったこともない業務を背負わされたり…。

そんな時、なんで自分がこんな目に、という気分になるのは仕方ないことですね。ため息も「はぁ」「ふう」とつきまくりで…。そのうに、「ため息をつくとも幸せが逃げる」などの前向きアドバイスを頂くと、「いやいやもう幸せ逃げてるから」とか「ため息は深呼吸替わりで身体に良いのだ」などと、気にかけてもらったことへの感謝もそこに、心の中で屁理屈をこねがちですね。

一寸先は闇。そんな言葉がちらついたりもします。でも、これって闇で見えないだけで、悪いと決まってるわけではなくて、一寸先に行って自分で確かめるしかないってことよね。と、ぐずぐず言っていた割には前向きな屁理屈をこねてみたり。そんな心持ちで、闇の中に何が待つのか、期待も不安も抱きつつ、激動の2024年度を生き抜こうと微かに心燃やす、一寸ひねくれ気分の私であります。 國